

特集

通程

わたしたちの
後ろに続く
まちの未来



劇団道化◆九州の平和シリーズ第4弾

知覧・青春

～アイ・アム・ヒア!～

作 ▶ 中村芳子・篠崎省吾

演出 ▶ 永井寛孝

＜テーマソング＞

作詞 ▶ 鹿屋島の子ども劇場の青年たち

作曲 ▶ 野田かつひこ

平成18年。天寿を全うして天国へやってきた香月今日子は、
天国の受付係に「尋ね人」の依頼をする。
彼女が探したい人は、60年前の戦争で、
17歳で特攻隊として飛んで行った恋人の柳川良彦。
ところが、天国の死亡登録簿に彼の名前はない。
驚く今日子に、係員は「消息検索機」を使って、
今日子に良彦の消息を検索してみせる……。
戦後、中学校の英語教師となり、
自立した女性として生きてきた今日子の77年の人生を通して、
「人間の滑稽さ・素晴らしさ」「戦争の悲しさ」を考える青春物語。



良彦は青い空へ飛び立って行った…。
戦後60年を教師として生きた今日子は、
70歳を越えて一つの出来事に出会います……。



■開催日時

12月11日(金)

開場／午後6時30分

開演／午後7時

■料金／一般…

1,800円(当日2,000円)

小学生～高校生…

1,000円(当日1,200円)

ペア…

3,000円(前売りのみ)

※全席自由 ※電話予約可

■場所／三股町立文化会館

■主催／三股町・三股町教育委員会

■お問い合わせ・チケット販売／

三股町立文化会館

☎0986-51-3462

NPO法人

劇団道化

福岡県大宰府市朱雀6丁目3-18 〒818-0103

TEL.092-922-9738 FAX.092-922-9812

(注)日本劇団協議会加盟/日本児童・青少年演劇協議会加盟/国際児童・青少年演劇協会日本センター加盟

最新情報は
ホームページで
www.douke.co.jp
info@douke.co.jp

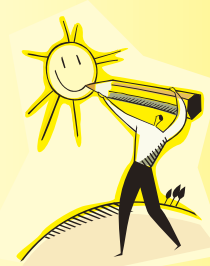
■みまた座6期生 本公演

あのととき

終わらなかつた

世界(仮)

作／野島彰 演出／永山智行



■開催日時

3月28日(日) ※2回公演

1回目・開演11時

2回目・開演15時

■料金／一律 300円 ※全席自由

■場所／三股町立文化会館

■主催／三股町・三股町教育委員会

■お問い合わせ・チケット販売／

三股町立文化会館 ☎0986(51)3462

※内容などに変更がある場合があります。

どう生きるのか

勝岡小6年 副島 紗稀

わたしはボランティアにとっても関心があります。それはなぜかというと、人はみんな一人では生きていけないと思うからです。自分では気が付いていないだけで、いろんな人に助けられて生かされているのだとわたしは思います。こんな自分でも、誰かの役に立っているのではないかと思います、ボランティア隊への参加や、勝岡みどりの少年団への入団をして、日々いろんなことを学んでいます。

自分は何不自由なく生まれ育ってきたけれども、世界には水や食べる物がなくて死んでいく子どもたちや、難病と闘っている子ども、戦争が原因で、手足を奪われた子ども、巻き添えとなり死んでいった子どもなど、苦しんでいる人たちがたくさんいることを知りました。

わたしたちは、この満たされた環境で感謝することを忘れてしまっているような気がします。恵まれすぎた生活の中にいるということ、いろんなことが鈍感になってしまっているのではないかとわたしは思いました。水や食べる物だけでなく、人間関係にも同じことが言えると思います。

ます。当たり前と思いがちな小さなやり取りも、他人と言葉を交わすことによって、新鮮な気持ちになれることに気が付いてきました。

今、自分にできることから始めようと思います。人に優しく、自然に優しく、自分も大切にできる心の強い人になれるように頑張ります。この良い環境を生かして、活動を通して、一つでも多くのことを学び、自分のものにして成長していきたいと思います。(一部抜粋)



勝岡みどりの少年団

昭和51年発足。花づくり、社会奉仕、レクリエーションなどの活動を通して、「自然を愛し、人を愛し、社会を愛する心豊かな人間」を目指す。現在、団員数は23人。勝岡小学校3年生～6年生で構成される。副島紗稀さん(写真中央)のバックボーンだ

11月3日、町青少年育成会議主催の「子どもの声を聴く会」が文化会館で開催されました。この作文は発表した8人のうちのひとり、副島紗稀さん(勝岡小6年)のものです。

12歳の子どもが、これからどう生きるのかを考える。これまで自分の歩んできた道を振り返り、これから一歩ずつ足を踏み出して紗稀さんだけの道をつくっていくこうとしているのです。紗稀さんの思いは、教科書にも掲載されている高村光太郎の詩「道程」の冒頭、「僕の前(まへ)に道はない、僕(ぼく)の後ろ(うしろ)に道は出来る」をほうふつとさせます。

現代は、ボタンを押すだけで、それまで1時間かかっていたことが10分でできるようなものが次々と生まれる時代です。この日々進化する「便利さ」、実はわたしたちの時間の短縮、手間の省略にほかなりません。紗稀さんが言うように、わたしたちは身の回りにかさまざまなことに慣れてしまい、いつの間にかさまざまなことに心配りを忘れて、楽なこと、楽しいことばかりを追求してしまっていないでしょうか。

地域のつながりの希薄化、医療の崩壊、地球の温暖化……。こういった問題はわたしたちが便利さを追求するあまり生じたはずみなのかもしれません。

「わたしたちの行動一つでわたしたちの後ろに道はできる」。今号では、わたしたち一人ひとりの未来に向け、三股の未来に向け、わたしたちが今まさに踏み出さなければならない一歩を考えます。

特集

わたしたちの後ろに続く
まちの未来

道程

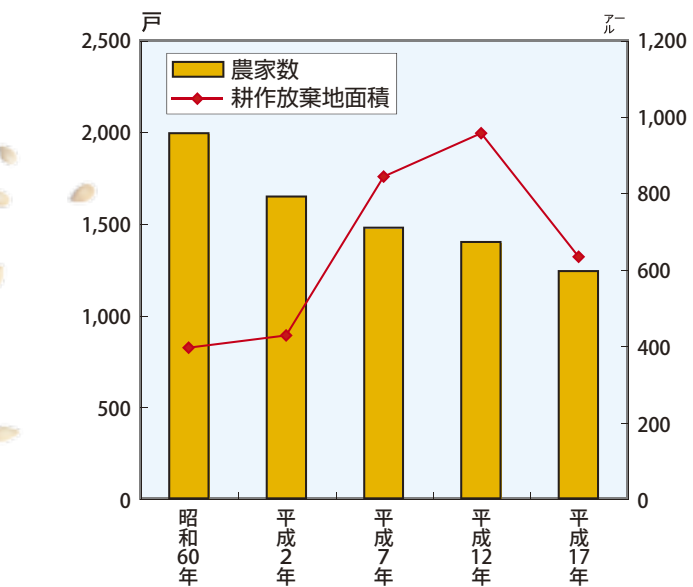
挑戦し、開拓する 道程

町の基幹産業である農業は、肉用牛、ひな、サトイモ、ラッキョウ、荒茶が全国1800市町村の中でも100位内に入る産出額を誇ります（※）。また、黄金のじゅうたんのように広がる稲穂も秋の風物詩の一つです。しかし、この農業も年々高齢化が進み、従事する人口は減ってきています。景観悪化や獣害が問題視される耕作放棄地も近年は減少傾向にあるものの、今後増えることも考えられます。

農業従事者が減少傾向にある今、霧島会（小牧俊一会長・22人）は、そんな農業を盛り上げようとゴマの栽培を展開し、町農業の未来に一歩踏み出しました。

※平成17年分・九州農政局宮崎農政事務所統計部制作
「みやざきの全国レベルの農畜産物」より

町内農家数と耕作放棄地面積の推移



実るゴマ

ゴマのサヤは4つの部屋に別れ、各部屋に20～25粒の実が整列する

農業を盛り上げたい

民主団体の役員を歴任してきた小牧俊一さんは、後継者不足などの問題を抱えている町農業の現状を知り、何かできないかと考えていました。そんな折、ゴマの存在を知りました。

温暖な気候で水はけのいい土壌であれば比較的栽培しやすいといわれるゴマ。シラス土壌の本町には好都合でした。「ゴマと言えば三股町。そう呼ばれる未来を考えただけでわくわくしたね」。小牧さんは胸を躍らせました。



「ゴマを町農業の新分野として開拓できんもんやろか。難しいかもしれんけど、やってみなけりゃ分からんよ」。平成20年12月、こうして霧島会は立ち上がりました。

賛同して集まったのは元サラリーマンばかり。会員22人中、農業を知っているのは2世代農家の西村世都夫さんと和人さん親子だけです。「みんなとても熱心で農業をしているわたしたちも感心しますよ」と世都夫さんも素人集団の

熱心さには舌を巻くほど。小牧さんは「こういう挑戦は、わたしたちのような年金で生活している人じゃないとできないかもしれんね。今まで懸命に勤めてきて地域のことになかなかできなかったから、これからは少しでも地域に貢献できればいいとよ」と話します。

6月中旬、会員の土地など合わせて1町3反（1130㎡）の田畑にゴマの種をまきました。ゴマは種まきから約100日で収穫。この間、雑草取り、間引きやカマを使った収穫などは、すべて手作業。完全無農薬にも泣かされました。



霧島会

平成20年12月に発足。会員数22人。町農業を盛り上げようと、さまざまな職種を経験した人たちが集まる。現在ゴマ栽培に取り組むほか、アーモンド栽培なども視野に入れる

ゴマ

栄養食品としてがんの予防や肝機能を高める働きがあるとされている。体に必要なミネラルも多く含まれ、美容と健康の面から注目される。しかし、栽培過程の機械化が難しく、手間が掛かるため、国内ではなかなか生産されにくい。現在、国内で使われているゴマの99・9％は輸入に頼っている。国内での主な産地は鹿児島県喜界島など。種類は白ゴマ、黒ゴマ、金ゴマなどがある。写真は霧島会が収穫した金ゴマ



耕作放棄地

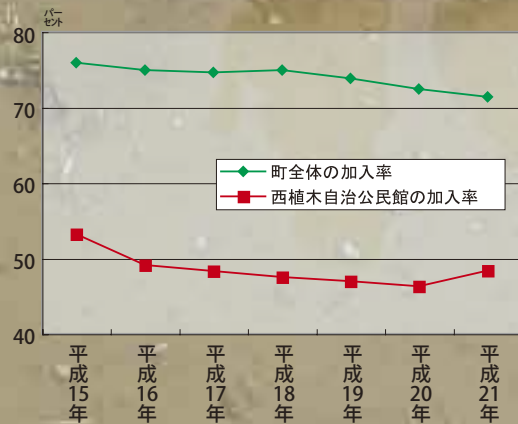
耕作放棄の背景には作る人がいないだけでなく、作る作物がないといったものがある。また、作物の大量輸入で価格下落が生じたのも影響しているという。町では近年、減少しているものの、今後も農業従事者の減少が続けば、耕作放棄地も増える恐れがある



視点を変え、工夫する

過程

町内自治公民館と
西植木自治公民館の加入率の推移



町内に30ある自治公民館は、地域のつながりを強めようとしてさまざまな活動に取り組んでいます。しかし、加入者数は年々減少し、地域のつながりの希薄化が懸念されています。中でも、新興住宅地として都城市に隣接する西植木地区は、公民館加入率が町内で最も低く、頭を悩ませています。

そんな中、西植木自治公民館長の和田善秋さんは、「大人」が主役の公民館活動に、「子ども」を主役にした活動を取り入れました。コミュニティ再生に一歩踏み出したのです。

9月下旬、いよいよ収穫のときを迎えました。総収穫量は合計597^ロキ。目標の1^トには及びませんでした。初めての結果には皆満足しています。しかし、喜んでばかりもいられません。今年は運良く台風の影響がなかったためです。「周りにこれだけ収穫できたと言ったら、今年は台風が来なかったからねと言われましたよ。確かにそうだなと。台風が来ればどうなるかも知りたいね」。11月11日の総会では、問題点や今後の対策など、多くの意見が交わされました。

また、町学校給食センターの学校栄養職員、下野洋子さんも生産者の農業やまちづくりへの思いを知ろうと総会に出席。本年度、町が進めている「地産地消の学校給食」を通して、子どもたちに食と農の結び付きを学ぶ「食農教育」の場を提供し、農業への理解、町産食材への関心を高めようという考えです。11月18日の給食から実施している「地産地消の学校給食」に、今後、霧島会のゴマが登場するのも会員の楽しみの一つになりました。

「目的はあくまでまちおこし。ゴマが町のPRになればいい。ただ、安定した収入が伴わなければ、やってみようという人はおらんでしょう。だから、何年かは自分たちで試行錯誤して、収入が安定するようにしないとね」。そう話すのは会計の佐澤隆一さん。町物産館「よかもんや」をはじめとする販売ルートの確保など、安定した収入を得る方法を模索しています。

小牧さんは「ゴマが町の農家の所得を上げ、



機械化が進んでいないゴマ栽培はすべて手作業。笑顔で取り組むのは夢に向かう気持ちの表れだろう(上)



霧島会の夢が詰まったゴマ。写真は干した後のもの(右)

失業者や就農者への支援、耕作放棄地の解消にも役立てることができれば、こんなにうれしいことはないね。この会は別名、夢と希望を持つ会だね」と目を細めます。さらに「最近若い人がいないと言われるけど、定年退職して60歳を過ぎた人たちはみんなバリバリ働いている。60歳を若いと考えれば、町内に若者はいくらでもいるんだよね」とも。

「何歳になっても何でもやれる」。平均年齢65歳の「若者たち」は、町の農業に新たな道をつくり始めました。



はじめの一步
町学校給食センター
学校栄養職員
下野 洋子さん



ゴマが
取り持つ縁
特定非営利法人
ハートイン
りずみつく
坂元 邦子さん

子どもたちが経済的に自立できるようになるためには、いろいろなことを経験させたいと思っていました。これまで、屋内での内職がほとんどで、ずっと太陽と緑の中で外に出て働く喜びを感じてほしいと思っていました。そんな中、霧島会に声を掛けてもらい、こうしてゴマ畑の草取りや刈り取りに参加させてもらいました。作業では子どもたちが生き生きとしています。これも何かの縁。今後もお手伝いさせていただければうれしいです。

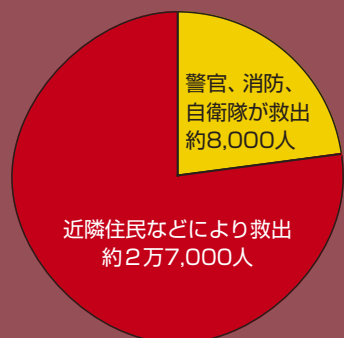


なぜ「地域のつながり」が必要か

地域の密なつながりは日ごろの生活を豊かにするだけでなく、さまざまな効果をもたらす。

平成7年1月17日に起こった阪神・淡路大震災では、生き埋めになった3万5,000人が救出された。このうち、近隣住民によって救出された2万7,000人は、約80%の人が生存。一方、消防・警察・自衛隊が救出した約8,000人はその半数が亡くなったという。災害発生から24時間以内の救出は生存率が高いといわれ、コミュニティ力が多くの人の命を救ったといえる。また、震源直近の淡路島北浦町では、地域住民が生き埋めになった人々を自発的に救出し、町内全域の救出活動がスムーズに行われ、行方不明者を一人も出さなかった。この地域は、日ごろからコミュニティ活動が盛んで、高齢者などの家の配置や日ごろの生活状況を近所の人が知っていたという。「平成15年防災白書」（内閣府）には、「日常生活における人々の結びつきはお互いの心配りや助け合いを通じて、平素の生活自体を豊かにするという観点からだけでなく、災害時に人の命を救ううえで大きな力を発揮するということをも重要であるということをも再認識させる契機となった」と記されている。

内閣府「平成15年版防災白書」より



子どもたちと相撲をとる和田さん。後ろには転倒に備え、若い保護者がそっと立つ。和田さんの思いが少しずつ形になっている証拠だ



「わたしにとって子どものころのいい思い出だった十五夜まつりがなくなっていました。今の子どもたちはかわいそうだと思いますね。地域でのよき思い出こそが郷土愛を育てます。そう思って、公民館で主催することにその意義があ

ると考えました」。和田さんは、公民館活動に参加する子どもたちが大人になったとき、この経験こそが育った地域、そして公民館の役割を大切に思うようになると考え、十五夜まつりを30年ぶりに公民館活動として復活させたのです。

その十五夜まつりは10月11日に

行われました。参加した子どもは50人。地域の高齢者や保護者の大支援に子どもたちは一層力が入ります。その光景を見た和田さんは「はじめはね、子どもたちに『おじちゃんの顔を知ってるか』と尋ねたら、『知らない』って言われていたんですよ。最近同じことを尋ねたら『知ってるー』ってね。子どもが地域の大人を知る。ここ



が地域づくりの始まりかなと思うんですよ」とにっこり。
子どもを主役とした活動の甲斐あってか、自治公民館加入率も今年は少しだけ上昇。今後子どもを主役にしたさまざまな活動に取り組もうと考えています。
和田さんの思いとそれを受け取った地域の人たち。西植木地区はコミュニティの再生に向け、視点を変えた大きな一歩を踏み出しました。

子どもがカギを握る地域づくり

年々下がる公民館加入率、地域のつながりの希薄化……。これらに歯止めをかけたいと思って、いた西植木自治公民館長の和田善秋さんは、今年初めて子どもたちが主役の自治公民館活動に取り組みました。



「公民館に入ってくるのを待っているだけじゃだめなんです。こっちからも歩み寄って何かできることはないかと考えた結果です」と話す和田さん。子どもが参加すれば保護者も地域に目を向けるのではないか、地域の大人と子どもが顔見知りになれば、地域のつながりも強まるのではないかと考えたのです。さらに、そのつながりを強固なものにするためには、学校、家庭、地域の3つの連携が必要と考え、同地区の子どもたちが通う三股西小学校の清水聡校長に活動への参加を依頼。主旨に賛同した清水校長は快く引き受けてくれました。

農家も少なく、田植えを知らない子どもたちが多い新興住宅地で、まず取り組んだのは、「子

ども田植え教室」でした。同地区の子どもたちを招き、田植え、稲刈り、脱穀の一連の作業を大人と一緒に行うことで、地域のつながりを強化しようというのです。

「経験は宝物。子どもたちがもちのうちに粘り強く育ってほしいという願いもありました」。6月21日に行った田植え、そして11月1日の稲刈りの講師はもちろん地域の大人たち。田んぼに笑い声を響かせながら親子で作業する姿に、和田さんも顔をほころばせました。

「これまでは、高齢者と子どもたちが触れ合える場が少なかったのです。おじいちゃん、おばあちゃんも知恵と技を提供し、子どもたちは体験する。お互いに刺激になると思いますよ」。そう話す和田さんは、地域のさらに先を見つめます。

五穀豊穡を祈り、綱引きと相撲で大地に感謝する「十五夜まつり」。町内各地区では青壮年会や親子会が主催して行い、めずらしい行事ではあります。しかし、この地区では30年ほど前から途絶えていました。



子どもたちが地域の大人を知ったことで、会ったらあいさつをしてくれるようになりました。また、12月27日にはできたもち米でもちつきをする予定ですが、支部に入っていない人も、もちつきの道具を進んで貸してくれるなど、この活動がつながりを強くしていることを実感しています。支部長たちも協力してくれるおかげ。まだはじめの一步です。これからも一歩ずつ前進していきたいと思います。



一歩ずつ前に

西植木自治公民館 文化副部長
松元 重子 さん

少子化や核家族化によって、近年、地域の教育力の低下が叫ばれています。そういった中、こうした公民館単位で行う活動は互いをいたわる先輩後輩の間柄といった子どもたちの人間関係を育てる意味でも大きな意義があります。学校としても、地域の教育力を高めるこの活動には期待しています。この活動が来年、再来年と続く中で、たくさんの人にその輪が広がっていくといいですね。



地域の教育力に期待
三股西小学校
清水 聡 校長

道程

農業をしたこともないのに農業の未来を考える人がいる。自治公民館の活動に新たな風を吹き込む人がある。紗稀さんのような考えを持つ子どもがいる。そんな人を育てる学校がある。地域がある。まちがある。そんなまちに住むわたしたちだからこそ、踏み出せる一歩。わたしたちの道程。

身の回りからヒントを見つける

子どもと大人のできることに差があるのは当たり前前。何世代もこのまちに住む人と、昨日転入してきた人の地域への愛情に差があるのも当たり前前。しかし、わたしたちすべての人に共通して言えるのは、踏み出す一歩が道をつくる、つまりわたしたちの行動の一つひとつが自身をつくり、まちをつくるということです。

それは、老若男女関係なく、今このまちに住む、このまちにかかわる人が皆、三股町の開拓者と言えるのではないのでしょうか。

ここで、8人の町民の皆さんにそれぞれが踏み出した一歩を聞いてみました。皆さんそれぞれに日常生活からヒントを得てその一歩を踏み出しているようです。

Settlers ourselves

わたしたち自身が開拓者



黒木 優香さん（長田小）



猪野 誠祈さん（植木）



小田 陽子さん（梶山）



原田 大輔さん（上米）



田中 真由美さん（東原）



横山 健一さん（仲町）



本山 千代さん（清流園）



立山 紀夫さん（下新）

学校生活では、友達の性格やそのときの気持ちを良く知って接することの大切さを学んでいます。小さなことかもしれないけど、「話し掛けられたら返事をする」「困っている人を見掛けたら声を掛ける」ということを心掛けて周りの人に笑顔で接していきたいです。そして、一人ひとりが笑顔で生活できる学校を、仲間と協力してつくっていききたいです。

東高校の生徒会と希望者で、老人ホームの慰問やふるさとまつり、ボランティアまつりでのボランティアをしています。昨年やってみて楽しかったので、今年も参加しました。人のためになっているとはまったく思わないですが、こういう活動で子どもと遊ぶのは楽しいですし、これからも機会があったらいろんな活動に参加してみたいと思います。

結婚して昨年三股町に転入してきましたが、主人と一緒にごみの分別はしっかりしています。どちらかというと主人のほうが熱心でしたが、わたしも環境問題などには関心を持っていましたし、ちょっとしたことで子どもの未来が少しでも良くなるなら、自分ができることはしたほうがいいと思って。子どものために今後も続けていきたいと思っています。

消防団や上米棒踊り保存会に入っています。父や兄が入っていたことで、子どものころからあこがれていました。どちらもみんな一つの目的に向かって、達成したときの喜びを分かち合うことができるところがとても心地いいです。楽しいから続けていける。でも、自分が楽しみながら、将来、気付いたら地域に貢献していたというのが理想です。

わたしはマイバッグを使うようになって3年になります。はじめは、「ポイントをためてマイバッグと交換」というお店のチラシを見て、やってみようと思いました。環境汚染など、たくさんの情報を聞くと、水が汚くなったら嫌だなと思いましたし、自分ができることを自分のできる範囲で少しでもやったほうがいいのかなと思ってやっています。

看護師のかたわら、おもちゃ病院のおもちゃドクターをしています。ものを大切にする習慣付けのほか、子どもたちの役に立てればと思って始めましたが、おもちゃを直す技術はまったくの素人でした。しかし、動かなくなったおもちゃが動き出すと、子どもたちも大喜び。その笑顔がたまりません。今後はもっとおもちゃドクターを増やしたいですね。

わたしは布絵本づくりに参加させてもらっています。足に障害があり、「自分にできることを」と始めました。会ではみんな応援してくれますし、人のつながりという面でも人一倍楽しんでいるかもしれません。子どもたちの笑顔を想像するとわたしも楽しくなりますし、自分も楽しんで、周りも笑顔になるなんて、こんなにうれしいことはないですね。

教員退職後、平成10年4月から、交差点で子どもの登校時に交通指導をしています。といっても、早起きができるし、これならできかなと思っただけで、たまたま続いているだけ。ただ、教員時代、地域にお世話になりましたので、その恩返しができればとは思いました。今10年続けてこれたので、もう10年は続けられるかなと思っているところです。

笑顔あふれる未来への 道程

夢と希望にあふれる未来。

わたしたちがその道を開拓する

わたしたちの前に道はありません。今この瞬間から前後左右360度どこにでも足を踏み出せます。その方向を選ぶのはわたしたち自身。そして踏み出したその後ろには道ができていくのです。

踏み出す一步は、新しいものに挑戦することかもしれません。今あるもので視点を変え、工夫することかもしれません。しかし、これらはわたしたち一人ひとりの身の回りに必ずヒントがあるはずです。

夢と希望にあふれる未来。わたしたちはその未来に向かって道をつくっていく開拓者です。だからこそ、わたしたちは今まさに踏み出す一步に、時間も手間も掛けて踏み出す必要があるのではないのでしょうか。そうして一人ひとりが踏み出した一步は、その思いを共にする人のつながりによって、大きな道になるのです。わたしたちの行動一つひとつで、わたしたちの人生、わたしたちの三股町はできていくのです。

※高村光太郎作詩「道程」を一部引用

町は 踏み出す 一步を応援します

がんばる地域づくり応援事業

まちづくり意見箱

総務企画課 企画政策係

黒木孝幸 係長



特色あるまちづくりには、一人より二人、二人より三人とたくさんの方が同じ思いを持って行動することが大きな一歩となります。町は、そんな一歩を踏み出す団体を応援しています。さまざまな活動の中で、地域のつながりを強めようと活動している、またはこれから活動しようとする団体は、上限20万円の補助金がありますので、ぜひご連絡ください。また、町は町民の皆さんのまちづくりへの意見を募集しています。役場、中央公民館、文化会館、元気の杜、健康管理センターに意見箱を設置していますので、多くのご意見をお寄せください。

■問い合わせ

総務企画課 企画政策係

☎ 52-1111 (内線224・225)



昨年補助金を交付した上米棒踊り若武者会の「夢桜」イルミネーション(上)と切寄地区の「切寄竹灯ろう」(下)

ボランティア

ボランティア

連絡協議会事務局

川崎紀久さん



さまざまな参加の方法があるボランティア。写真はエコロジープランティア(上)と障害者ふれあいサロン(下)



「こうすればみんなうれしいだろう」、「こんなことしたら自分はうれしい」。皆さんこう思ったことはありませんか。そんなときに周りの人と助け合うことで、お互いに豊かな気持ちになれるはず。

身近なところで誰かに困ったことがあったとき、「困った時はお互いさま」と考えるのがボランティアの第一歩です。

「興味はあるけれど、一歩が踏み出せない」、「何かやってみたいけれど、何をすればいいのかわからない」。そんな人は体験ボランティアもありますので、ぜひご連絡ください。

■問い合わせ

社会福祉協議会

ボランティア連絡協議会事務局

☎ 52-1246

共に歩を進めましょう

三股町長 桑畑和男



近年、まちづくりには協働のまちづくりの重要性が叫ばれています。この協働のまちづくりとは町民と行政が理想のまちに向かって共に考え、共に行動するというもので、本町もさまざまな分野で取り組んでいます。しかしながら、まちづくりの主役は町民の皆さんです。地域特有の課題や町内全体の課題を解決するには、霧島会や西植木自治公民館をはじめとした町民の皆さん一人ひとりの力が不可欠なのです。行政はすべての町民の皆さんがより快適に生活できるためのお手伝いをするものです。ですから、皆さんにはもっと行政を活用していただきたいと思っています。そして、本町の目標像である「活力にあふれ、心温まる住みよいまち三股町」を形成するために、共に歩を進めましょう。

特集

わたしたちの後ろに続く
まちの未来

道程



黒木まゆみさん

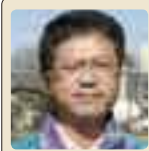
「地域の人は地域で守る」といって、多くの皆さんが協力してくれました。今後、高齢者の皆さんと一緒に楽しく続けていきたいと思っています。」

10月21日、寺柱地区健康料理教室は、第3地区分館で一人暮らしの高齢者に弁当の作製を行っていました。

同地区食生活改善推進員の黒木まゆみさんが、地区内の75歳以上の単身世帯23人を食事でもてなそうと同教室に呼び掛けて行ったものです。

豚肉のしょうが焼きやイモねたなど鮮やかに盛り付けられた弁当と白雪鍋は、高齢者が食べやすいようにと工夫され、地域の愛情が詰まった弁当に、参加した高齢者は皆笑顔をこぼしていました。

寺柱地区健康料理教室 一人暮らし世帯に愛情弁当



堀内 義郎さん

「今後も一層の努力を重ねたいと思います。ボランティアなどを通して、特産品、商品開発などにも手掛けていけるよう頑張ります。」

10月22日、宮崎市で行われた「林業研究グループ九州地区交換研修大会」で、町林業研究グループ（堀内義郎会長）の活動報告が九州・沖縄8県から見事2位に選ばれました。

同グループは、昭和54年に設立され、現在19人で構成。林業技術の改善向上、地域社会の参画を主なテーマとして活動しています。大会では、月1回の勉強会やふるさとまつりでの木工教室、オブジェ制作、体験型環境教室など、年間を通じた活動内容を発表し、高い評価を受けました。

町林業研究グループの活動 九州大会で2位の高評価



中原 康憲さん

「地域の奉仕作業などにも積極的に参加して、重機を出すなど建設業だからこそできる地域貢献を心掛けていきます。今後も継続していきます。」

10月23日、町建設業協会（中原康憲会長）は、道路美化活動として、町道沿道などの奉仕作業を行いました。

これは、災害時の応急活動や建設業の特性を生かしたボランティア活動を行うことで地域に貢献しようという同協会の社会貢献活動の一環で、昨年から始めたものです。

この日、参加したのは同協会会員36人。梶山、谷地区と櫛田、田上線、広域農道、沿道の除草や道路法面の竹などの伐採を行い、カーブ付近の見通し改善が行われました。

町建設業協会、「社会貢献を」と 道路美化活動を実施



福永 昇さん

「牛の発育調整に苦労しましたが、権威ある共進会で上位入賞は感無量。今後も消費者に喜ばれる牛肉づくりに励みたい。」

10月27日、都城市で行われた第55回宮崎県畜産共進会の枝肉部門で、夢池在住の和牛肥育農家である福永昇さんが、優等3席に入賞しました。

本部門には、県内各地から110頭が出品。枝肉の肉質を基準に審査され、福永さん出品の枝肉は特に品質が高いと評価されました。

また、福永さんは、平成19年に鳥取県で開催された全国和牛能力共進会でも日本一に輝いた実績もあり、その安定した肥育技術に今後も期待がかかっています。

福永昇さんの肥育技術 県共進会でも高評価



野元 大吾くん

「木を植えるのは初めてで、今日はお父さんと一緒に5本ぐらい植えました。きれいな森になったらいいなと思います。」

11月1日、三股猟友会は、長田地区の町有林で「恵の森」植樹会を開催しました。

これは、野生動物の餌場確保や土砂崩壊による災害を防ぐために、保水力のある広葉樹を植樹するというものです。

参加したのは猟友会や公募で集まったボランティア合わせて150人。約2畝にアカシヤやイロハモミジなど17種3200本を植えました。

本事業は今年から3年掛けて約6畝に広葉樹の植栽を計画。町民のいこいの場づくりとしても期待されています。

広葉樹林「恵の森」猟友会ら 3200本を植樹



平成21年度 三股町表彰式

功績をたたえて

町は11月3日、平成21年度三股町表彰式を文化会館で行い、13人を表彰しました。

これは、町政の振興、町民福祉の増進や文化の発展向上などに功績のあった人、団体を顕彰するもので、毎年文化の日にて式典を行っているものです。

受賞者の皆さんとその功績は次のとおりです。

功労賞（社会部門） 松山 保治さん

平成8年4月から20年3月まで12年にわたり、下新自治公民館長として地域住民の福祉の向上、コミュニティづくりに尽力。また、同9年から町自治公民館連絡協議会の副連協長、11年から9年間を連協長を務め、本町行政の推進に大きく貢献しました。



功労賞（産業部門） 木下 盛夫さん

昭和60年から平成9年まで町和牛生産部会で榊山地区役員、同9年から13年まで副部会長、同13年から21年まで部会長として尽力。本町の農業振興と発展に大きく貢献しました。



功労賞（行政部門） 久保 靖雄さん

平成6年12月から20年12月まで14年1ヵ月にわたり、町選挙管理委員会委員として、適正な選挙執行に尽力。町民の選挙に対する意識の高揚に大きく貢献しました。



功労賞（行政部門） 指宿 俊彦さん

平成7年4月から20年5月まで13年2ヵ月にわたり、都城地区交通安全協会三股支部長として、交通安全運動や広報活動に尽力。町民の交通安全に対する意識の向上に大きく貢献しました。



功労賞（社会部門） 小牧八壽子さん

平成6年1月から7年3月、同10年12月から現在まで12年2ヵ月にわたり、民生委員・児童委員として、町内の生活相談、援護指導など積極的に住民福祉の増進に努め、ボランティア活動や共同募金の推進にも尽力。本町社会福祉の発展伸張におおきく貢献しました。



功労賞（社会部門） 財部 伍夫さん

平成7年12月から19年11月まで12年にわたり、民生委員・児童委員として、勝岡地区内の生活相談、援護指導など積極的に住民福祉の増進に努め、ボランティア活動や共同募金の推進にも尽力。本町社会福祉の発展伸張におおきく貢献しました。



功労賞（社会部門） 野中 功さん

平成7年12月から19年11月まで12年にわたり、民生委員・児童委員として、山王地区内の生活相談、援護指導など積極的に住民福祉の増進に努め、ボランティア活動や共同募金の推進にも尽力。本町社会福祉の発展伸張におおきく貢献しました。



功労賞（芸術部門） 後藤田規子さん

茶道の指導者として、長年、後進の育成指導に務め、保育園や小中学校に伝統文化茶道子ども教室を開設するなど、本町の芸術文化、生涯学習の向上に大きく貢献しました。



功労賞（体育部門） 長友 優磨さん

都城東高等学校ボクシング部のライトウェルター級選手として、全国高校総体に出場し、全国3位という好成績を収めました。



功労賞（体育部門） 別府 優樹さん

都城東高等学校ボクシング部のライトウェルター級選手として、全国高校総体に出場し、全国3位という好成績を収めました。



功労賞（教育部門） 森 政弘さん

昭和57年4月から平成19年3月まで25年にわたり、町青少年指導員として青少年の事故や非行を未然に防ぐ活動に尽力。町青少年育成に大きく貢献しました。



功労賞（芸術部門） 後藤田規子さん

茶道の指導者として、長年、後進の育成指導に務め、保育園や小中学校に伝統文化茶道子ども教室を開設するなど、本町の芸術文化、生涯学習の向上に大きく貢献しました。



平成10年4月から現在に至るまで、小学生、高校生を交通事故から守るため、毎朝の通学時間に稗田交差点に立ち、交通安全指導、交通安全の意識向上に努め、安心安全なまちづくりに大きく貢献しています。



善行賞 立山 紀夫さん



武道体育館で同時開催された文化祭。約3,000点の力作に来場者もうっとり



会場内では、いろいろな催しが行われ、多くの来場者をもてなした



町女性団体連絡協議会の廃油を使ったキャンドルアート。町の木イチョウの葉をかたどった紙に夢を書いて貼り付けた「いちょうの夢」。たくさんの人の夢が描かれると紅葉したイチョウの木になった



「みまたの絵」コンクールの受賞作を展示。会長賞を受賞したのは佐藤紋日彩ちゃん（小4）



復活した人間早馬競争では、木製そりに、小学生の部30*、一般女性の部90*、一般男性の部150*の俵をそれぞれ載せて競争。場内は割れんばかりの声援を送った（15日）

県内でも「ひっぱりだこ」のミマタレンジャーショーは子どもたちに大人気（15日）



2日間も行われた大抽選会の1等は旅行券。おめでとう！（14日）



町コミュニティバス「くいまーる」も2日間は臨時便を出した



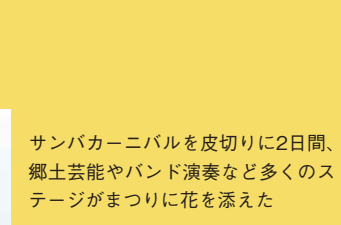
ふるさとまつり前に行われた山王原・仲町地区の交通安全、防犯パレード。毎年趣向を凝らしたパレードで、楽しみにしている人も（14日）



5種類1,000食が振る舞われた夜鍋談議（14日）



サンバカーニバルを皮切りに2日間、郷土芸能やバンド演奏など多くのステージがまつりに花を添えた



第19回

三股町ふるさとまつり

「第19回三股町ふるさとまつり」は、11月14日、15日の2日間にわたり、ふれあい中央広場をメイン会場に開かれ、約5万人の人出でにぎわいました。

まつりは、地場産業や文化の発展などを目的に、町や商工会、JA、各種民主団体などで構成されるふるさとまつり実行委員会が企画したものです。今年はふるさとまつり名物「人間早馬競争」も3年ぶりに復活し、会場は多彩な催しに終始来場者の熱気で盛り上がりを見せました。

また、武道体育館では同2日間にわたり「三股町文化祭」を開催。書道、絵画や創作物など、個人や団体から出展された約3,000点を展示しました。

当時、わたしは建設会社に勤めていて地方のダム工事現場で現場監督をしていました。入社して1年目、車の免許も取得して1年目の18歳でした。その日は突然やってきました。仕事納めということで午前中で仕事を終わりにして、以前から約束していた「現場の忘年会」を兼ねた食事会に出掛けたのです。酒の席になることは想像できましたし、いけないと分かってはいましたが、わたし自身あまり酒は飲まないから大丈夫だろうという甘い考えで自分の車を店まで乗っていたのでした。事故はこの食事会の帰りに起きました。

そのとき、車内にはわたしを含め4人が乗っていました。1人は同じ現場で働く仕事仲間の男性で、あと2人は以前の食事会のときに知り合ったばかりの地元的女子高校生でした。わたしは3人を送り自分も寮に帰ろうと車を走らせていました。酒を飲んでいましたが、量も少ないし酔った感覚もないから平気だろうという軽い気持ちで運転をしていたのです。

わたしの車が交差点を通過したときでした。けたたましいサイレンの音が聞こえ始めたのです。パトカーがものすごい勢いで追いかけてくるのが分かりました。突然の出

尊い命を奪って

来事で自分は何をしたのか、なぜ追われているのか理解できませんでした。しかし、すぐに「まずい」という考えが頭に浮かんだのです。「酒を飲んでいる」という後ろめたい気持ちを抱きながら運転していたからです。

そして、わたしは「逃走」というあまりにも浅はかな身勝手な判断をしてしまったのです。気が付いたときにはもうすべてが起こってしまった後だったので、逃走中の事故でした。

わたしの運転する車は右カーブを曲がりきれず制限速度をはるかにオーバーしたスピードでガードレールに激突してしまつたのです。わたしは完全に反転してしまつた車内の中、意識を取り戻したのです。見るものすべてがゆがんでいました。ハンドルもダッシュボードもすべて。そのときでした。助手席に乗っていた女子高校生は亡くなりました。わたしの起こした事故が原因で死亡してしまつたのです。彼女の死を知ったとき、わたしはどうしたらいいのかわからず、わたしはどろどろしていました。ただぼろ然としてしまつたことを覚えています。横では実家から駆け付けた母が泣き崩れていました。わたしは泣くことすらできませんでした。

通夜と告別式には両親と兄が行つてくれました。当事者であるわたしは入院してしまい伺うことができなかったの

※ 贖いとは、罪を償うという意味。
 ここに掲載してある手記は、交通事故を引き起こして刑務所で罪の償いをしている人たちの悔いの記録です。
 一瞬の過ちによって、家族、恋人、友人など親しき人々から隔絶され、自ら犯した罪を反省している様子が文脈の端端から伝わってきます。
 このような悲惨な事故を引き起こさないよう、心の戒めにしたいだと思います。
 (勸東京交通安全協会提供)

T・Y 20歳 会社員



皆さん、よろしく！

2人の新しい外国語指導助手が三股町に来ました。今回は彼らを紹介いたします。2人は小学校の外国語指導助手です。女性のコレット・グラントさんはジャマイカから来ました。ジャマイカは英語圏です。彼女の趣味は読書と登山です。26歳で、スポーツが得意です。中でもサッカーやバドミントンが好きなのだそうです。大学では情報科学と中等教育を勉強したそうです。

男性で背が高いアダム・バークさんはアメリカから来ました。27歳で、アニメと漫画が好きです。一番好きな食べ物は焼肉だそうです。特技は武術でカンフーの黒帯有段者です。アメリカでは弁護士資格を取ったそうです。

2人とも三股町での日本文化や日本語の勉強を楽しみにしています。みんな歓迎しましょう。



クリストファー・ラプトン



温故知新による第二弾「破」



毎回好評のロビーコンサート



温故知新の「破」
 10月3日、「温故知新式(破)」を開催しました。

この公演は町在住の上之園謙治さん【パーカッション】と都城市在住の石井秀弦さん【津軽三味線】の二人からなる「温故知新」のコンサートで、昨年から3年を通して「守・破・離」をテーマに行っています。

この「守・破・離(しゅはり)」とは、「伝統を受け継ぐものにとつて忘れてはならない」という意味を持つ日本古来の武道の教えで、その中の「破」とは、「今まで学んで身につけた教えから一歩進めて、師から教えられたものにこだわらず、さらに心と技を発展させよ」という意味です。

今年はその「破」のテーマに添って、坂田梁山さん【尺八】、増田厚司さん【琴】の二人をゲストに迎え、温故知新の曲をアレンジして演奏。温故知新の楽曲に尺八・琴の音色が重なり、破の

テーマのとり、日本古来の楽器が新しい音楽を生み出し、その懐かしくもあり新鮮な音色は、場内をうっとりとした雰囲気包みました。

また、翌4日は、石井秀弦さんの誕生日ということで、出演者による花束のプレゼントなどがあり、会場から大きな拍手がありました。

来年は3部作の最後、「離」。今回見逃した人は、ぜひ来年の公演に足を運んでみてください。

エンタランス・ロバン

毎週水曜日(第三水曜を除く)に文化会館のエンタランスで、「小さな音楽会」の皆さんがボランティアで行っている「ロビーコンサート」を開催しています。なじみのある童謡や、最近の歌謡曲まで幅広く演奏するもので、図書館利用者や親子連れなどから大人気のこのコンサート。文化会館ではリクエストも受け付けていますので、電話、FAXでドシドシご応募ください。

読書週間10月27日～11月9日

読書週間だった10月27日から11月9日。期間中、館内では新開孝さんの昆虫写真展、山元修成くんの昆虫、蝶の標本展を開催しました。多くの来場者が足を止めて写真や標本に見入っていました。また、カブトムシの幼虫を配布すると、手の指ほどの幼虫を手にとって「かわいい」と多くの子どもたちが喜んでくれました。うまく育ててくれることを願います。期間中に行ったカウンターの貸出体験コーナーも276人の子どもたちが体験しました。

図書館まつり

10月25日、「劇団こぶく劇場」による『走れメロス』の朗読会を行いました。三味線あり、振り付けありの朗読に、参加者はいつしか太宰治の世界に入り込んだように聞き入っていました。

午後からは新開孝さんの虫の生態についての映像を交えた講演があり、大人も熱心に聞き入っていました。また、



読書週間にいった展示は多くの来場者の目を楽しませました



大人も熱心に聞き入った新開孝さんの講演「虫のふしぎさかし」

「虫の写真を撮るコツは」「この虫とあの虫はどっちがはやく飛びますか」などのたくさん質問も飛び出し、新開さんのていねいな回答に、参加者はとても喜んでいました。

11月1日は、館内でわらべ唄、絵本や紙芝居を楽しみました。午後からの映画会にはたくさんの子どもたちが来場し、2時間の映画会を楽しみました。来年は皆さんもぜひご参加ください。

年末年始も図書館が熱い！

12月にはUMKのアナウンサーを呼んでおはなし会を開催する予定です。

また、1月16日の午後3時から講談社のおはなし隊がやってきます。本をたくさん積んだバスの見学やおはなし会もあります。どうぞお越しください。

■休館案内(25歳以上のカレンダー)月曜日(祝日の時はその翌日)・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)・第3水曜日(館内整理日)・館内資料一斉点検(年1回15日以内)



◎問い合わせ 三股町立図書館 〒889-1901 三股町大字樺山3406-8 TEL.51-3200 FAX.51-3751

お知らせ

■ 年末年始

【ごみ】

● 年 末

★ごみステーションでの収集

■ 燃やせないごみ＝

12月28日(月) 午前8時まで

■ 燃やせるごみ＝

12月29日(火) 午前8時まで

■ 資源ごみ(空き缶・びん)＝

12月17日(木) 午前8時まで

■ 資源ごみ(トレイ・ペットボトル)＝

12月24日(木) 午前8時まで

★個人による搬入

■ 燃やせないごみ＝一般廃棄物最終処分場(クリーンヒルみまた)

12月29日(火)・30日(水)

午前8時30分～正午

午後1時～4時30分

■ 燃やせるごみ＝清掃工場

12月29日(火)・30日(水)

午前8時30分～正午

午後1時～4時30分

※ごみ処理手数料が掛かります。

家庭ごみ＝50*_円毎に100円事業ごみ＝100*_円毎に200円

■ 資源ごみ(空き缶・びん・トレイ・ペットボトル)＝都城市リサイクルプラザ

12月29日(火)・30日(水)

午前8時30分～正午

午後1時～4時30分

※各施設とも年末は特に混雑が予想されます。事前に分別をしっかりと行って、円滑なごみ処理にご協力ください。

● 年 始

★ごみステーションでの収集

■ 燃やせないごみ＝

1月4日(月) から平常どおり

■ 燃やせるごみ＝

1月5日(火) から平常どおり

■ 資源ごみ(空き缶・びん)＝

1月7日(木) から平常どおり

■ 資源ごみ(トレイ・ペットボトル)＝

1月14日(木) から平常どおり

★個人による搬入

すべて1月4日(月) 午前8時30分～

■ 燃やせないごみ＝一般廃棄物最終処分場(クリーンヒルみまた)

■ 燃やせるごみ＝清掃工場

■ 資源ごみ(空き缶・びん・トレイ・ペットボトル)＝都城市リサイクルプラザ

■ 問い合わせ

環境水道課 環境保全係

☎52－1111(内線273)

清掃工場(都城市郡元町)

☎23－0277

都城市リサイクルプラザ

☎36－3900

【し尿処理】

● 電話受付 12月25日(金) まで

● 最終収集日 12月30日(水)

● 年始業務開始 1月4日(月) から

■ 問い合わせ

都城北諸地区清掃公社

☎38－0234

【急病診療機関】

★日中(午前9時～午後6時)

各当番医(25㉔に掲載)

※掲載後に変更している場合があります。

☎23－5555でご確認ください。

★夜間(午後7時～午前7時)

都城救急医療センター(外・内・小)

☎39－1100

【歯科診療機関】

各当番医

☎25－4100でご確認ください。

平成22年用宮崎県民手帳の販売について

今年も平成22年用宮崎県民手帳を販売することになりました。

県民手帳は、県や市町村の各種統計、県内の主な行事などが収録しており、仕事や日常生活に大変役に立つ手帳です。ぜひ、県民手帳の愛用をよろしくお願いします。購入を希望する人は、次の販売場所でご購入ください。冊数に限りがありますので、早めの購入をお願いします。

■ 品名＝宮崎県民手帳 15㉔×9㉔

■ 金額＝1冊500円(消費税込み)

■ 販売期間＝2月15日(月) まで

■ 販売場所＝役場案内窓口、総務企画課

■ 問い合わせ

総務企画課 企画政策係

☎52－1111(内線225)

製造事業所の皆さんへ統計調査にご協力ください

経済産業省では、工業統計調査を12月31日現在で実施します。この調査は、製造業を営む事業所を対象として、その活動実態を明らかにすることを目的として、明治42年に始められ、おかげさまで100周年を迎えました。

調査結果は、国や地方公共団体の行政施策の重要な基礎資料として利用されるとともに、企業、大学などでの研究資料、小・中・高等学校の教材など、広く利用されているところです。

皆さんから提出された調査内容の秘密は、統計法に基づき厳守されますので、安心して正確なご記入をお願いします。

<http://www.meti.go.jp/statistics/>
経済産業省・宮崎県・三股町

■ 問い合わせ

総務企画課 企画政策係

☎52－1111(内線225)

平成22年度の三股就学援助費の募集

町教育委員会では経済的理由で就学困難な児童生徒の保護者に対して、学用品費や給食費などの援助を行っています。平成22年度就学援助費の募集要領は次のとおりです。

■ 対象者＝生活保護受給者に準じる程度に困窮している人

■ 申し込み方法＝

①小・中学校に用意してある申込書に必要事項を記入し、必要書類を添えて、学校に提出してください。

②児童生徒1人につき、1件の申し込みが必要です。

※来年度小学校入学予定児童は、入学予定の小学校へお申し込みください。

■ 必要書類＝

世帯用の所得課税証明書または平成20年分源泉徴収票など、世帯全員(同居している人全員)の総所得が分かるもの。

■ 認定審査の方法＝

提出された書類の内容と地区民生委員・学校長の意見を参考にしながら、教育委員会で審査・認定を行います。※詳細は下記までお問い合わせください。

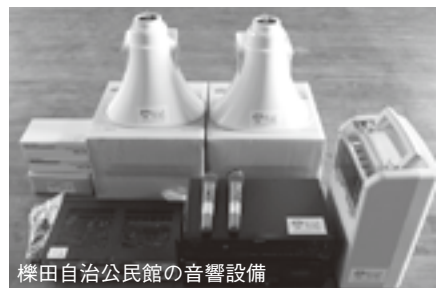
■ 問い合わせ

教育課 学校教育係

☎52－1111(内線424)

宝くじ助成事業でコミュニティの活性化

財団法人自治総合センターでは「宝くじ普及広報事業」の一環として、櫛田自治公民館に音響備品・簡易倉庫整備助成を行いました。コミュニティ組織の活性化や円滑な活動に役立つものと期待されます。宝くじ収益金は、市町村の明るい町づくりや環境対策、高齢化対策などの地域住民の福祉向上に使われています。



櫛田自治公民館の音響設備



櫛田自治公民館の簡易倉庫

■ 問い合わせ

教育課 生涯学習係

☎52－1111(内線432)

「本年金機構」が来年1月1日からスタート！

～社会保険庁が廃止され、新たに「日本年金機構」がスタートします～

社会保険庁は組織・人員を一新し、「日本年金機構」として生まれ変わります。

現在の社会保険事務所は、新たに「年金事務所」と名称が変わりますが、年金

相談などの窓口として引き続きご利用できます。また、「年金事務所」は社会保険事務所の建物をそのまま使用しますので、所在地に変更はありません。

日本年金機構は、社会保険庁から公的年金の運営を引き継いで行うこととなりますが、公的年金制度は国の制度として、その財政や運営に国が引き続き責任を持つことについては、これまでと変わりません。また、日本年金機構の設立に伴い、これまでの社会保険庁や社会保険事務所の名義で案内していた各種の関係書類は、内容によって今後は厚生労働省または日本年金機構の名義で案内することとなりますが、それに伴い皆さんに何らかの手続きをしてもらうことは一切ありませんので、ご安心ください。

■ 問い合わせ(12月末まで)

宮崎社会保険事務局 運営課

☎0985－62－0082

愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明寄付を次のとおりいただきました。

故人のご冥福をお祈りいたしますとともに、社会福祉発展のために有意義に利用させていただきます。

誠にありがとうございました。

三股町社会福祉協議会					
10月1日から31日まで					
寄 付 者	続柄	故人名	年齢	地区	金額
中内 政子	夫	利見	62	東植木	2万円
河野 良啓	父	義行	93	大 野	3万円
原田スミ子	朗唯	秀子	54	上 米	3万円
今村 貢	夫	照男	78	前 目	10万円
児玉真千子	夫	覚	57	蓼 池	3万円
岩崎 民子	夫	宣雄	91	上 新	20万円
岩崎健一郎	母	レイ	94	山王原	10万円
下村ナル子	母	フヂ	96	上 米	2万円
山下 次覚	母	ミキエ	102	下 新	3万円
園田 紀隆	妹	淳子	67	東植木	3万円

一般寄付(社会福祉協議会へ)

商工会女性部どんぐり会…1万3,600円

(5周年記念チャリティ発表会)

ボランティア連絡協議会 2万2,947円

(ボランティアまつり収益金)

下水道事業の認可区域を拡大します！(平成22年3月1日を予定)

町では、全町水洗化を目指して、下水道事業の促進を行っています。現在、今市・中原・花見原・新馬場・稗田地区の整備もほぼ完了し、多くの皆さんに下水道を利用してもらっています。

今回、東原・仲町・五本松・山王原の一部の区域を下水道事業認可区域として拡大を行います。今後、この区域では下水道整備が順次実施されますので、ご協力をお願いします。

なお、認可区域に指定されますと合併浄化槽の補助金が受けられなくなりますので、当区域内で建築などの計画がある人は、ご相談ください。

■ 相談・問い合わせ

環境水道課 下水道係

☎52－1111(内線262・263)



Children 子ども

健康管理センターからのお知らせ

●健康管理センター ☎52－8481

●赤ちゃん健診

■期日＝1月8日（金）

■受付＝午後1時～1時45分

■対象者＝平成20年12月、平成21年2月・4月・6月・8月・10月生まれの乳児

●「小児救急医療電話相談」について

県では、休日などの夜間に小児救急患者などの保護者からの電話による相談事業を実施しています。

季節がら、風邪やインフルエンザなどが流行する時期です。救急外来の混雑も予想されますので、夜間の子どもの急病時に病院へ行ったほうが良いか判断に迷ったときにご利用ください。

■相談利用日時＝土・日曜、祝日、年末年始

午後7時～午後11時

■相談電話番号＝プッシュ回線：＃8000

携帯電話、ダイヤル回線、IP電話の場合は

☎0985－35－8855にお掛けください。

※相談料は無料ですが、通話料は利用者負担になります。

子育て支援センターからのお知らせ

●子育て支援センター ☎52－8101

●友達つくろう！一緒にあそぼう！

■期日＝12月17日（木）

■時間＝午前10時～11時

子育てサークル「いもん子クラブ」さん

●親子ふれあいコンサート（小さな音楽会）

☆クリスマスコンサート☆

■期日＝12月22日（火）

■時間＝午前10時～11時

■場所＝総合福祉センター「元気の杜」大会議室

1月の行事予定

【親子教室】

期日＝1月21日（木）

時間＝午前10時～11時

内容＝第2回♪楽しい遊び方保育士を講師にお迎えします。楽しい時間を一緒に過ごしませんか。

今月の歌♪
おちやらかほい
1. せつせつせーのよいよい
おちやらかおちやらかおちやらかほい
2. おちやらかまけたよおちやらかほい
（泣きまねをする）
3. おちやらかあいこおちやらかほい
（二人とも腰に手をあてて）
おちやらかほい

General 一般

健康管理センターからのお知らせ

●健康管理センター ☎52－8481

●リズムウォーキング

■期日＝12月21日（月）

■時間＝午前11時～正午

※ストレッチや「歩く」動作を中心とした運動を健康運動実践指導者が指導します。

●新型インフルエンザワクチン接種について

新型インフルエンザワクチン接種が優先順位の高い人から始まっています。今後も優先順位に基づいて順次、接種が開始される予定です。

■ワクチン接種の優先順位＝

①～⑥の順に優先的に接種が開始されます。

① 医療従事者（救急隊員を含む）

② 妊婦、基礎疾患がある人（基礎疾患がある人のうち1歳～9歳を最優先）

③ 1歳～小学3年生

④ 1歳未満児の保護者と優先接種対象者のうち身体上の理由で予防接種が受けられない人の保護者

⑤ 小学4～6年生、中学生、高校生

⑥ 65歳以上の高齢者

■接種費用＝1回目…3,600円、2回目…2,550円

※ただし、2回目の接種を1回目と違う医療機関で接種する場合は3,600円になります。

■費用助成＝

次に当てはまる人には町が接種費用を助成します。

【全額助成】

優先接種対象者に当てはまる人で、

- ・生活保護世帯の人（証明書必要）
- ・町民税非課税世帯の人（証明書必要）

※1回目、2回目は同じ医療機関で接種してください。

【一部助成】

非課税世帯以外の人で、

- ・妊婦
- ・1歳未満児の保護者
- ・1歳～中学3年生まで

1回目…1,800円、2回目…1,200円が町から助成されます。助成額を引いた残額は自己負担になります。

※2回目を1回目と違う医療機関で接種した場合は、2回目の自己負担が2,400円になりますのでご注意ください。

■持っていくもの＝

ワクチン接種を受けるときには、優先接種対象であることを証明できるもの（かかりつけ医が発行する優先接種対象者証明書、母子健康手帳、各種健康保険被保険者証、学生証、住民票など）が必要です。また、全額助成の人は全額助成のための証明書と優先接種対象者である証明が必要になります。

■接種できる医療機関＝

健康管理センターに問い合わせるか、都城保健所のホームページで確認してください。

※接種できるすべての医療機関では予約が必要です。

※各医療機関の予約状況についてはお答えできません。

※新型インフルエンザワクチンの詳細は、12月1日付け回覧でもお知らせしますので、そちらもご確認ください。

第9回宮崎県障害者スポーツ大会出場者募集！

●社会福祉係（内線164・165）

■開催期日＝平成22年5月9日（日）

■開催場所＝県総合運動公園ほか

■大会参加資格＝

県内に居住している人で、次の要件を満たす人。

①身体の一部 平成22年4月1日現在、13歳以上で、身体障害者手帳の交付を受けている人。または、その取得の対象に準じた障害がある人

②知的の一部 平成22年4月1日現在、13歳以上で、療育手帳の交付を受けている人。または、その取得の対象に準じた障害がある人

③精神の一部 平成22年4月1日現在、13歳以上で、精神保健福祉手帳の交付を受けている人。または、その取得の対象に準じた障害がある人

■競技種目＝

陸上競技＝身体の一部、知的の一部

水泳＝身体の一部、知的の一部

卓球＝身体の一部、知的の一部

アーチェリー＝身体の一部

フライングディスク＝身体の一部、知的の一部

ボウリング＝知的の一部

バレーボール（団体）＝精神の一部

ミニバレーボール（団体）＝精神の一部

グラウンド・ゴルフ（団体）＝精神の一部

※なお、身体の一部は、障害により出場できる競技の種目に制限があります。

■募集締切＝1月22日（金）

■申し込み・問い合わせ＝福祉課 社会福祉係

Advanced age 高齢者（介護保険） Long term care Insurance

『介護保険料納付証明書』の発送について

●介護高齢者係（内線162・163）

介護保険料は、国民健康保険税や国民年金保険料と同様に『社会保険料控除』の対象となり、その年の1月1日から12月31日までに支払った介護保険料を翌年に行う確定申告において控除できます。

来年1月中旬から下旬にかけて『介護保険料納付証明書』を第1号被保険者（65歳以上の人）あてに送付しますので、確定申告の手続きの際には、この証明書を添付してください。（確定申告までしばらく期間があります）再発行はしませんので紛失などに注意して大切に保管しておいてください。

なお、特別徴収（介護保険料が年金【遺族・障害年金を除く】からあらかじめ差し引かれる）の人は、社会保険業務センター

などからも、公的年金などの源泉徴収票が郵送されます。役場から送付された『介護保険料納付証明書』と二重に控除を受けることがないように十分ご注意ください。

地域包括支援センターからのお知らせ

●町地域包括支援センター☎52－8634

●口腔ケアの具体的な方法

口腔ケアは、大きく2つに分けられます。

1つ目は口腔内のお手入れで衛生状態を維持したり良くしたりする方法、2つ目は口腔の働きを維持したり改善したりする方法です。

今回は口腔内のお手入れで衛生状態を維持したり良くしたりする方法を紹介します。

①毎食後必ず歯をみがきましょう。

②入れ歯ははずして、ていねいにみがきましょう。

口の中に入れっぱなしにしていたり、正しい手入れをしていないと、入れ歯は細菌やカビの温床となり、肺炎を引き起こす原因にもなってしまいます。

③しっかりうがいをしましょう。

口の中の汚れを洗い流すだけでなく、口腔リハビリにもなります。入れ歯を装着するときもうがいを口の中をきれいにしてから装着しましょう。

④寝るときは入れ歯をはずし歯と歯ぐきを休めましょう。

はずした入れ歯は義歯洗浄剤に一晩つけておき、朝起きてから、水を流しながら、義歯ブラシで洗浄剤や浮き出た汚れをよく洗って装着しましょう。

洗浄剤で浮き出た汚れは水で流しただけではきれいに落ちないので義歯ブラシを使用して汚れを落とすようにしましょう。

⑤入れ歯が合わないと感じたら、歯科医に調整してもらいましょう。

※次回は口腔の働きを維持したり改善したりする口腔ケアの方法をご紹介します。

●「足もと元気教室」

「足もと元気教室」の各地区での日程は、次のとおりです。どの地区の教室も参加者が増えています。興味のある人はどうぞお気軽にご参加ください。なお参加時は体操のできる服装とシューズ、水分補給の準備をしてお越しください。

12月15日～1月20日（日程は、毎月案内します）

地区名	時 間	場 所	日 程
蓼 池	午前9時30分～11時	蓼 池 児 童 館	12月17日・1月7日
轟 木	午後1時30分～3時	轟 木 集 落 館	12月21日
植 木	午後1時30分～3時	西穂木コミュニティセンター	12月16日・1月13日
中 原	午前9時30分～11時	中原コミュニティセンター	12月16日・1月13日
寺 柱	午後1時30分～3時	寺 柱 青 年 の 家	1月14日
谷	午後1時30分～3時	2地区交流プラザ	1月12日
前 目	午後1時30分～3時	前 目 研 修 館	1月20日
餅 原	午後1時30分～3時	餅 原 研 修 館	1月18日
梶 山	午前9時30分～11時	第4地区分館	1月20日
今 市	午前9時30分～11時	今 市 児 童 館	1月18日
小鷲巣	午後1時30分～3時	第3地区分館	12月24日
1地区	午前9時30分～11時	第1地区分館	12月18日・1月15日



◎ 今月の表紙

『その一歩が大事』



赤ちゃん土俵入り

11月8日、宮村地区の御年神社では、「赤ちゃん土俵入り」が行われました。古来、大地を踏みつけて、邪気を払うとされる“しこ”を踏み、無病息災を祈願するこの行事。力士が赤ちゃんにしこを踏ませる場面では、泣きじゃくる赤ちゃんも多くいました。しかし、その一歩は、希望あふれる未来への大きな一歩になることでしょう。

みまた ぐらしのカレンダー

9.December ~ 9.January 2009

※診療時間 午前9時～午後6時
※やむを得ず変更する場合がありますので
☎23-5555でご確認ください。
(※夜間／都城救急医療センター☎39-1100)
※歯科については☎25-4100に
問い合わせてください。

◎12月の予定

9	水		
10	木	・トレイ・ペット	
11	金	・可燃物	
12	土		
13	日	◎有川医院(呼吸・胃) ☎24-6677(上川東) ◎児玉小児科(小) ☎25-5570(花線町) ◎竹田内科(内) ☎38-1036(高木町) ◎吉松病院(外・整) ☎25-1500(蔵原町) ◎酒井皮膚科(皮) ☎25-5322(北原町) ◎中山耳鼻科(耳鼻) ☎24-2648(妻ヶ丘町)	
14	月	・不燃物	・図書館休館日
15	火	・可燃物	
16	水		・図書館休館日
17	木	・缶・びん	
18	金	・可燃物	
19	土		
20	日	◎田口クリニック(内) ☎24-0600(下川東) ◎戸嶋病院(内) ☎22-1437(郡元町) ◎仮屋医院(内・小) ☎36-0521(上水流町) ◎もちお蛸原医院(整形・形成) ☎21-5355(蔵原町) ◎ゆうクリニック(消・外・内) ☎46-6100(広原町) ◎小山田眼科(眼) ☎22-0710(松元町)	
21	月	・不燃物	・図書館休館日
22	火	・可燃物	
23	水	◎森山内科外科クリニック(内・外) ☎21-5000(南鹿尾町) ◎鶴木内科医院(循・内) ☎26-0008(花線町) ◎たけしたこども医院(小) ☎51-0005(三股町) ◎ながはま整形外科(整) ☎46-7188(都北町) ◎はまだクリニック(外・胃・肛) ☎45-2266(祝吉町) ◎永吉眼科(眼) ☎22-1530(姫城町)	
24	木	・トレイ・ペット	
25	金	・可燃物	
26	土		
27	日	◎柏村内科(内・消・循・呼吸) ☎22-2616(上 町) ◎有馬医院(内・小) ☎23-2610(上長坂町) ◎あきづき医院(内・心・内) ☎36-0534(上水流町) ◎野口脳神経外科(脳外科) ☎47-1800(太郎坊町) ◎山路医院(外・内) ☎64-3133(山田町) ◎すみ産婦人科(産・婦) ☎23-1152(東 町)	
28	月	・不燃物	・図書館休館日
29	火	◎坂元医院(内・胃) ☎22-0360(牟田町)	

29	火	◎久保原田中(内・小) ☎22-7700(久保原町) ◎出水医院(内) ☎59-9424(高城町) ◎よしかわクリニック(麻・整・内) ☎23-9384(前田町) ◎速見医院(泌) ☎24-8344(妻ヶ丘町) ◎北原医院(産・婦) ☎22-4133(北原町) ・可燃物 ・図書館休館日
30	水	◎野辺医院(内・胃) ☎22-0153(上 町) ◎松山医院(内・呼吸・リウ) ☎24-1046(上川東) ◎志々目医院(内・小) ☎57-2004(山の口町) ◎西平外科(外・胃) ☎25-5551(久保原町) ◎庄内医院(外・内・整) ☎37-0522(庄内町) ◎野田医院(産・婦) ☎24-8553(蔵原町) ・図書館休館日
31	木	◎藤元上町病院(内) ☎23-4000(上 町) ◎沖水こどもクリニック(小) ☎27-5656(太郎坊町) ◎大橋クリニック(内・消・リハ) ☎37-0539(庄内町) ◎倉内整形(整) ☎22-1252(上 町) ◎山下医院(胃・外) ☎52-1348(三股町) ◎やの耳鼻科(耳鼻) ☎27-5222(吉尾町) ・図書館休館日

◎ 1月の予定

1	金	◎宇宿医院(内・小・胃) ☎25-9031(栄 町) ◎あきと内科胃腸科(内・胃) ☎46-5500(都原町) ◎佐々木医院(内) ☎62-1103(高崎町) ◎たかお浜田(外・内) ☎22-8818(鹿 尾) ◎横山病院(泌) ☎22-2806(都島町) ◎丸田病院(産・婦) ☎23-7060(八幡町) ・図書館休館日	
2	土	◎ふくしまクリニック(内・消・小) ☎46-5001(下川東) ◎しげひらクリニック(内) ☎27-5555(神之山町) ◎坂田医院(内・消・胃) ☎51-2003(三股町) ◎仮屋外科(外・胃・内・肛門) ☎25-7712(志比田町) ◎ならはら皮膚科(皮膚) ☎22-1455(志比田町) ◎ふたみ眼科(眼) ☎38-5532(都北町) ・図書館休館日	
3	日	◎柳田病院(小・内) ☎22-4862(東 町) ◎とくとめクリニック(内・循・消) ☎26-1820(一万城町) ◎みまた病院(内) ☎52-1155(三股町) ◎福田クリニック(外・循・内) ☎46-1122(蔵原町) ◎江夏整形外科クリニック(整・リウ・リハ) ☎51-1122(三股町) ◎たき心療内科(心内・精・神内) ☎46-9191(若葉町) ・図書館休館日	
4	月	・不燃物	・図書館休館日
5	火	・可燃物	
6	水		
7	木	・缶・びん	
8	金	・可燃物	
9	土		

毎月19日は食育の日

- 問い合わせ：
健康管理センター
☎52-8481

いきいき げんき！

～大人もいっしょに「食育」～

町の
栄養士
から

★たのしく・かしこく・きちんと食べる★

旬の食材は おいしい！栄養価が高い！安い！といいことづくしです。
旬の食材を使った健康バランス食を紹介します。ご家庭での献立にご利用ください。

12月の旬食材…白菜

鍋に欠かせない食材の1つでもある白菜は明治時代に中国から入ってきました。全国に普及したのは昭和に入ってからで、その歴史は意外と浅いのです。カリウムを豊富に含んでいるので、煮汁まで一緒にいただきましょう。(表示の材料はすべて1人分です)



◎黄・赤の皿 きじ焼きどんぶり

【主食2つ(SV) 主菜2つ(SV)】420キロカロリー 塩分0.8グラム

材 料 鶏もも肉…60グラム、酒…小さじ1/4、しょう油…小さじ1/4、タレしょう油…大さじ1/4、さとう…小さじ1/2、みりん…小さじ1/2、ピーマン…半個、サラダ油…小さじ1/2、刻みのり…適宜、ごはん…150グラム、粉ざんしょう…少々

作り方 ①鶏肉は真ん中から観音開きして、厚みを均等にします。酒、しょう油をまぶす。②フライパンでこんがり鶏肉を焼き、余分な油を拭き取る。タレの材料を加え、煮立て、取り出し、1センチ幅に切る。③1センチ幅の縦切りにしたピーマンもさっと炒める。④ごはんを丼に盛り、刻みのりを散らし、鶏肉、ピーマンをのせる。残りのタレをかけて粉ざんしょうをふる。

◎緑の皿 白菜の炒め甘酢づけ

【副菜1つ(SV)】50キロカロリー 塩分1.0グラム

材 料 白菜の茎…70グラム、赤唐辛子…1/4本、さとう…大さじ1/2、酢…小さじ1、塩…小さじ1/5、油…小さじ1/2

作り方 ①白菜の茎は5センチ長の細切り、唐辛子はタネ



食育って？

毎日の食事によって身体が作られ、食事の質によって健康の質まで変わってしまいます。食べ物を選ぶ力、正しい知識を身につけ、心も体も健全な食生活を実践することができる人間を育てる教育のことです。

税

- 問い合わせ：税務財政課 TEL 52-1111(代) FAX 52-4944

12月25日(金)は納付期限です

- 納税管理係(内線 144・145・147)

納付期限内に納付しましょう。

- 国民健康保険税(6期)

※口座振替は12月25日(金)が振替日です。再振替は行っていません。24日(木)までに預貯金口座の残高確認をお願いします。

残高不足などで振替ができなかった場合は、その納期分の納付書を送付しますので、納付書で納めてください。

「納税相談」ご利用ください

- 納税管理係(内線 144・145・147)

税金は納付期限内に納めることが原則ですが、思わぬ事故や病気、失業などやむを得ない特別な事情があつて納付期限内に納められないときは、印かんをお持ちのうえ、早めにご相談ください。年度を繰り越す滞納とならないよう分割納付の相談や各種納税相談をお受けします。

償却資産申告書の送付について

- 資産税係(内線 142・143)

地方税法の規定で、償却資産の所有者は、毎年1月1日現在の償却資産所有状況を、1月31日までに申告することになっています。該当する償却資産の所有者には、申告に必要な書類を12月末までに送付します。期限までに申告書の提出をお願いします。

申告書が届かなかった場合は、ご連絡ください。

・町税の納付は「安心・便利・確実」な口座振替のご利用を！ ・この社会 あなたの税がいきている ・たばこは町内で買ひしょう



みんなが笑顔になれるから元気

「Mメイト通信」クローズアップ まちをささえる人たち

山王原在住 神宮司ミエさん

人のためには自分のため

山王原在住の神宮司ミエさんは、編み物が趣味。60歳で地区の高齢者クラブに入り、数人が集まって始めたという。ただ今、編み物歴36年。なんと2月で96歳になったそう。

「自分の健康のために、続けているんですよ」。そう話すミエさんは、もっぱらタワシを編む。「最近、環境汚染も大きくなっているでしょ。だからタワシ」。できたタワシはお寺やデイサービスセンターで配る。ミエさんが作るタワシは色鮮やかなデザインに加え、「少しの食器用洗剤で汚れが落ちる」と大好評だ。

「人が喜んでくれるとやりがいにつながる。人のためには自分のためですよ」。そう話すミエさんの夢は、とにかく長生きをすること。「もらってくれる人の笑顔を見たいね」。周囲の笑顔がミエさんの健康の秘けつだ。



町デイサービスセンターの皆さんと。「みんなとわいわいおしゃべりすることも健康の秘けつ」と話すミエさん

三股文芸

132

「短歌」◆三股短歌会

観る側となりし芸能発表会 つくづく若さと いふが羨しき

柴畑 千代子

町の芸能発表会を観ながら、かつては舞台上に立ったこともあるのに……と若い人たちをうらやましく思ったことでした。

日没にひとときは映ゆる 茜雲 心もとなき 秋の夕ぐれ

柴畑 洋子

短くなった秋の日、西の空を見るときれいな茜雲、眺めていると、何となく寂しさを感じるひと時でした。

「俳句」◆三股椿寿俳句会

五十年 一日づつの 師杓かな

荒 武 文博

結婚して50年。万感胸に迫るものがあります。筆舌に尽くしがたい坂道であったと思いますが、今すべてに感謝して師走を迎えることができました。

短日や 映画の名残 持ち帰る

山 際 みどり

機会があつて、少し古い映画ですが「阿弥陀堂だより」という映画を観たときのこと、自分の当時の琴線に触れたというのでしょうか、ほのぼのとした気持ちのまま帰宅したのでした。

◎町章

町の木「イチヨウ」を図案化したもので、外形は丸く円満で輪、すなわち和やかさを表し無限を意味しています。

◎町の花／サツキ

◎町の鳥／ホオジロ

◎町の木／イチヨウ

◎町のおいたち

三股町にはいろいろ発掘される土器から、新石器時代より各所に人が住んでいたことがうかがわれます。また、その名の起源は「古くから川三条、股になりて流れたり」と古書にあって、その名「三股」をとどめているといわれています。徳川時代は薩摩藩に属し、明治初年五戸長を一九として、戸長役場と改称しました。当時の地頭三島通庸公は荒涼たる原野に土木をおこし、産業を奨励し教育の振興をはかつて村造りをなし、ここ三股の基礎が築かれたのです。

明治23年、町村制実施により三股村となり、昭和23年5月3日に町制を施行して名実ともに三股町として発足しました。以来自治の発展に努め、文化農村建設へと邁進し、さらに今や数多くの企業誘致により町民の所得向上をはかりながら住みよい豊かな田園工業都市をめざして躍進しています。

三股町の人口

平成21年11月1日現在

- ・男／11,558人 ・女／13,286人
- ・計／24,844人 ・前月比+21人
- ・世帯数／9,702戸(+13戸)
- ・出生／19人 ・死亡／20人
- ・転入／98人 ・転出／76人

No.472
2009.12

発行・編集／三股町総務企画課
〒889-1995 宮崎県北諸県郡三股町五本松1番地1
TEL0986-52-1111 FAX0986-52-4944
URL <http://www.town.mimata.miyazaki.jp/>

わが家の一番星



きかんぼのまひるちゃん♪いつも笑わせてくれてありがとう。お姉ちゃんと弟と3人仲良く大きくなってね♪

加治屋まひるちゃん(3歳)
◎平成18年6月30日生まれ
◎康史郎さん・和恵さんの次女



とんちゃんおしゃべりがじょうずになって、ますます楽しくなりました。ママお姉ちゃんと仲良く詩ちゃん。のびのびと元気に大きくな～れ(^_~)

坂口詩ちゃん(1歳)
◎平成20年4月30日生まれ
◎秀一さん・郁恵さんの次女

【お便りやイラスト、お子さんの写真を募集しています】
皆さんからのお便りを募集しています。普段、生活で感じたことや皆さんへのお願いごとなどを400字以内に、またアニメのヒーローなどをお書きのうえ、お送りください。

◎わが家の一番星

3歳以下のお子さんの写真とコメントを添えてお申し込みください。

■問い合わせ 総務企画課企画政策係 ☎52-1111

茶じよけ

紙面に登場する人たちはもちろん、紙面では分からないところで協力してくれる人たちがいるからこそ毎月、広報紙は出ま上がるといふことに、本当に感謝しています。今号も各小学校教職員の皆さんや社会福祉協議会の皆さんなど、情報提供や助言いただいた皆さんのおかげでこうして出ま上がりました。▽あつという間に12月。一年が過ぎるのは本当に早いものです。便利なもののおかげで大幅な時間を手に入れたはずなのに、なぜこんなに忙しいと思うのか疑問です。そんな

中、2人で紹介した副島沙紀さんの「感謝することを忘れていないか」。襟を正す思いでした。忙しいと思えば思うほど、協力してくれる皆さんへの感謝の気持ちこそ省略してはいないかと省みたところでした。取り上げた人だけでなく、広報紙ができるまでに支えてくれる人たちが「協力してよかった」と思える広報紙づくりを心掛ければならないと思います。▽一言では言い尽くせませんが、今年一年、広報紙作成に対し、さまざまな場面で協力してくれた皆さんにこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。(^_~)